

令和6年度（2024年度） 科学研究費助成事業応募説明会

公募の概要と申請に向けての支援

研究支援・社会連携センター



1

説明内容

1. 科学研究費助成事業（科研費）の概要
2. 2024年度公募の主な変更点
3. 科研費申請の戦略
4. 研究支援・社会連携センターによる支援およびその他お知らせ



2

1. 科学研究費助成事業（科研費）の概要



「よい申請書」を書くために、抑えておくべきポイント

- 科研費ってそもそも何？
- どんなテーマを選ぶ？
- どの種目に応募すべき？
- 数値だけ見て油断しない！

1－1. 我が国の科学技術・学術振興方策における「科研費」の位置付け

○科研費は、**研究者の自由な発想に基づく研究**を支援する我が国最大規模の**競争的研究費**。



出典：日本学術振興会「令和6年度科学研究費助成事業説明会」資料1「科学研究費助成事業（科研費について）」



4

科研費申請で抑えておくべきポイント

- ・ 自由な発想に基づく研究
- ・ ですが、あくまで国の「競争的資金」
- ・ 原資は税金
- ・ 社会の要請に沿う必要はある
- ・ 審査委員に「この研究に投資すべき」
「この人にこの研究を実施させなければ損をする」と思ってもらう

1-2. 科研費の予算額と配分状況の推移



出典：日本学術振興会「令和6年度科学研究費助成事業説明会」資料1「科学研究費助成事業（科研費について）」



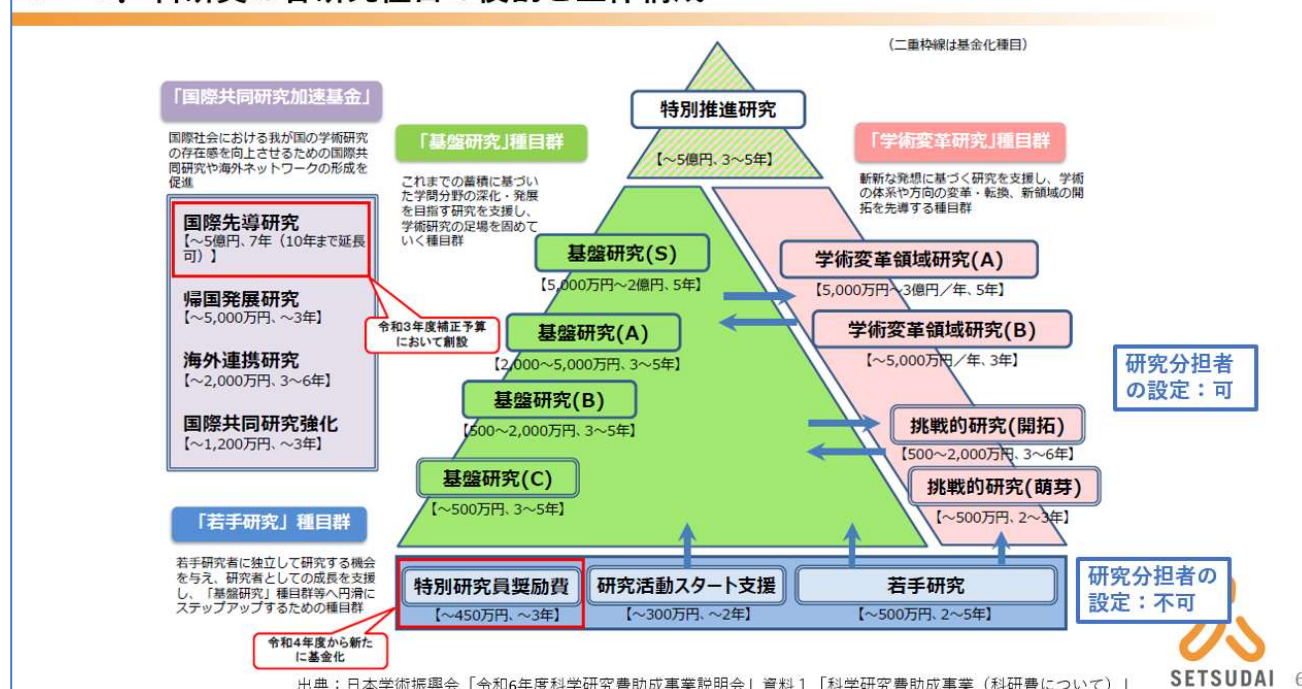
5

申請書を作成する上で抑えておくべきポイント

- 予算額は増えていない
→採択率や採択額が大きく伸びることは考えにくい
- 応募件数は減少傾向、R4の採択率は28.6%
→コロナによる延長者が多いため？
※R5もコロナの影響にともなう再延長措置あり
一気に採択経験者が新規応募してくる可能性あり

応募件数が減り、採択率が一時的に上がっているから
と言って、決して油断できない

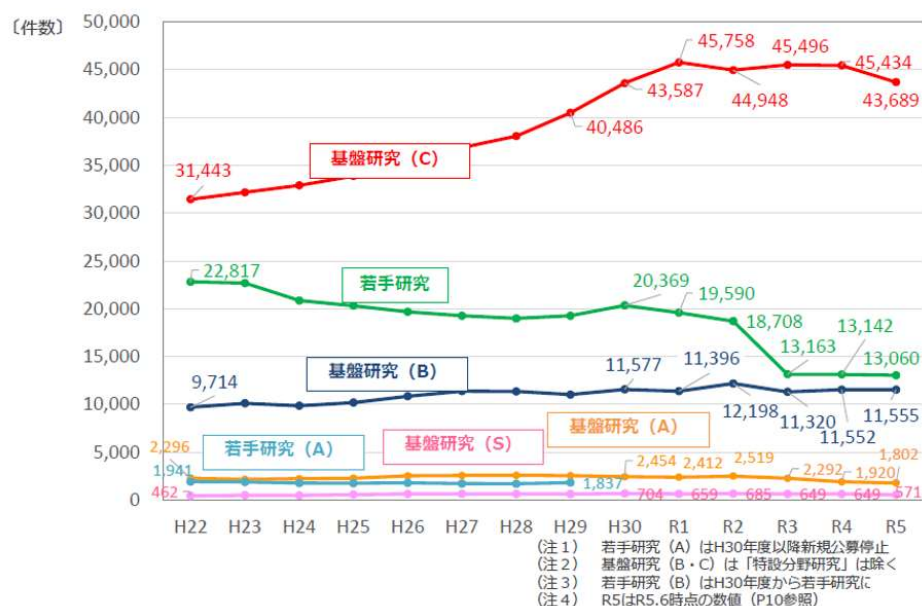
1-3. 科研費の各研究種目の役割と全体構成



種目を選定する上で抑えておくべきポイント

- 研究者になりたて、博士取得後8年未満→若手研究
- これまでの学術体系を変革するようなチャレンジングなテーマであれば「挑戦的研究」群（重複応募もお勧め）
- 基盤研究の場合、課題の目標に対し、どの規模で実施するのが適切か

1-4. 研究種目別応募件数



出典：日本学術振興会「令和6年度科学研究費助成事業説明会」資料1「科学研究費助成事業（科研費について）」



SETSUDAI 7

種目を選定する上で抑えておくべきポイント

- 基盤Aの申請者減少、応募時期早期化の影響？
→今回から基盤B以下と同じスケジュールになったため、申請者が増える可能性も
- 若手研究はR3の応募資格の変更により大きく申請者が減少し、R4は下げ止まり
→R5も同規模の申請者が見込まれる
- 基盤Bは大きな変化なし
→基盤Aのスケジュール後ろ倒しに伴い基盤Aに流れる可能性
- 基盤Cは申請者が減少
→コロナの影響に伴う延長者が一気に申請する可能性

1-5. 2022年度 科研費申請・採択の傾向【速報値】

研究種目別応募・採択状況

	2023		2022		2021		2020		2019	
	応募（件）	採択率（％）	応募（件）	採択率（％）	応募（件）	採択率（％）	応募（件）	採択率（％）	応募（件）	採択率（％）
基盤研究（A）	1,802	27.2	1,920	27.4	2,292	27.4	2,519	24.3	2,412	25.1
基盤研究（B）	11,555	28.0	11,552	29.5	11,320	30.0	12,198	27.8	11,396	29.2
基盤研究（C）	43,689	27.4	45,436	28.5	45,496	28.2	44,948	28.4	45,758	28.2
挑戦的研究（開拓）	1,502	11.8	1,365	13.4	1,564	11.4	1,607	9.2	699	11.6
挑戦的研究（萌芽）	9,036	12.3	9,391	16.0	9,963	15.8	9,722	12.8	10,815	12.8
若手研究	13,060	40.4	13,142	40.3	13,163	40.2	18,708	40.1	19,590	40.0

文部科学省「科学研究費補助金 配分結果」および日本学術振興会「令和5年度科学研究費助成事業説明会」資料1「科学研究費助成事業（科研費について）」から研究支援・社会連携センター作成



種目を選定する上で抑えておくべきポイント

- ・ 基盤研究に応募される場合、コロナによる延長者が一気に応募してくる可能性もあるため油断できない
- ・ 若手研究の採択率は高い(40%)
→若手研究の応募資格を有する方は若手研究がお勧め
- ・ 挑戦的研究は開拓・萌芽ともに採択率が低い
→基盤A・B等との重複応募がお勧め

2. 2024年度公募の主な変更点について



2. 2024年度公募の主な変更点について

- ① 科学研究費助成事業の公募時期の早期化
- ② 研究活動の国際性の確保
- ③ 研究計画調書の構成の変更
- ④ 生成AIの利用について
- ⑤ 審査資料の電子化及びカラー化
- ⑥ 科研費応募資格の変更（特別研究員DC）
- ⑦ 基盤Bにおける複数の小区分での合同審査の実施



2-1. 科学研究費助成事業の公募時期の早期化

今後の主な公募スケジュール（予定）（※1）

<令和6（2024）年度科研費>

研究種目名（※2）	公募開始	公募締切	審査結果通知（※3）	交付内定（※4）
特別推進研究	令和5年4月13日	令和5年6月19日	令和6年1月上旬	令和6年4月上旬
基盤研究（S）	令和5年4月13日	令和5年6月19日	令和6年2月中旬	令和6年4月上旬
学術変革領域研究（A・B）	令和5年4月13日	令和5年6月19日	令和6年2月下旬	令和6年4月上旬
学術変革領域研究（A）（公募研究）	令和5年7月14日	令和5年9月19日	令和6年2月下旬	令和6年4月上旬
基盤研究（A・B・C）、若手研究、奨励研究	令和5年7月14日	令和5年9月19日	令和6年2月下旬	令和6年4月上旬
挑戦的研究（開拓・萌芽）	令和5年7月14日	令和5年9月19日	令和6年6月下旬 【事前の選考】 令和6年2月下旬	令和6年6月下旬

出典：「令和6年度科学研究費助成事業説明会」資料2「科研費の最近の動向及び令和6年度公募について」



SETSU DAI 11

申請書を作成する上で抑えておくべきポイント

- 早期化に合わせ、早期から準備を
 - 採択に意欲的な研究者は、2月の不採択判明時点から今回の応募に向けた準備をしている
- 未着手の場合は、集中してご準備を

2-2. 研究活動の国際性の確保

〈背景〉

我が国の研究力の強化に向けては、「科学技術・イノベーション基本計画」（令和3年3月26日閣議決定）や「統合イノベーション戦略2022」（令和4年6月3日閣議決定）等の政府方針に基づき、科研費については研究活動の国際化等が求められています。これらの政府方針や科学技術・学術審議会学術分科会研究費部会における審議を踏まえ、令和4(2022)年度以降、科研費における研究活動等の国際化に向け取組を進めてきました。

研究者の国際的な研究活動を促す観点から、

- ・ **研究計画に関連した国際的な取組（国際共同研究の実施歴や海外機関での研究歴等）がある場合に、必要に応じて研究計画調書に記載できることを明確にしました※。**

※従来から記載は可能であったことを改めて明確化させたものであり、評定要素に変更はありません。

また、更なる研究活動の国際化に向け、学術研究の国際ネットワークの中で研究活動の質を高めていく観点から、以下の内容を令和5(2023)年度の研究者使用ルールに追加しました。

研究成果の積極的な国際発信に努めていただくようお願いします。

【研究成果の国際発信】

研究代表者及び研究分担者は、補助事業の遂行に当たり、国際学術誌への学術論文の発表、国際共著論文の執筆、国際会議等での発表等により研究成果の積極的な国際発信に努めなければならない。

出典：「令和6年度科学研究費助成事業説明会」資料2「科研費の最近の動向及び令和6年度公募について」



SETSUDAI 12

抑えておくべきポイント

- ・ 評定要素は従来通りであるため、国際活動について記載したから必ず高い評価となる訳ではない
→研究目的を遂行し得る能力がある実績を記載すべき
- ・ 研究成果の積極的な国際発信
（アピール方法として）
- ・ 国際発信を行うことを前提に「研究目的、研究方法など」に国際学会での発表や国際誌への投稿を予定していることを書く
- ・ 経費の欄に国際学会発表のための旅費・参加費、国際誌投稿のための英文校閲費、投稿料等を計上

2－3. 研究計画調書の構成の変更

研究費の応募・受入等の状況
(1) 応募中の研究費

基盤研究（C）（一般）11－（1）

資金制度・研究費名（研究期間・配分機関等名）	研究課題名（研究代表者氏名）	役割	令和5年度の研究経費（期間全体の額）	令和5年度エフオーツ（%）	研究内容の相違点及び他の研究費に加えて本応募研究課題に応募する理由等（左記の研究課題に応募するに当たっての所属組織・役職）（科研費の研究代表者の場合は、研究期間全体の受入額）
【本応募研究課題】		代表			
(R5～R7)			(千円)		(総額 千円)
			(千円)		



抑えておくべきポイント

- 将来的にはe-Radと連携
→研究費の過度な集中を避けるため正確な情報が求められている
- 受入中の研究費や応募中の研究費と今回応募する科研費の違いを明確に

2-4. 生成AIの利用について

[重要説明事項]（公募要領抜粋）

- 科研費は、研究者個人の独創的・先駆的な研究に対する助成を行うことを目的とした競争的研究費制度ですので、研究計画調書の内容は応募する研究者独自のものでなければなりません。
他人の研究内容の剽窃、盗用は行ってはならないことであり、応募する研究者におかれては、研究者倫理を遵守することが求められます。
なお、研究計画調書の作成に当たって、生成AIを利用することは、意図せず著作権の侵害、個人情報や機密情報の漏洩につながるリスクがありますので、このことに留意した上で研究者個人の責任において判断してください。
- 科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。
- 科学的知識の質を保证するため、また、研究者個人やコミュニティが社会からの信頼を獲得するためには、科学者に求められる行動規範を遵守し、公平で誠実な研究活動を行うことが不可欠です。日本学術会議の声明「科学者の行動規範－改訂版－」（うち、I. 科学者の責務）や、日本学術振興会「科学の健全な発展のために－誠実な科学者の心得－」（特に、Section I 責任ある研究活動とは）の内容を理解し確認してください。
- 学術研究の国際ネットワークの中で研究活動の質を高めていく観点から、国際学術誌での学術論文の発表、国際共著論文の執筆、国際会議での発表等により研究成果の積極的な国際発信に努めてください。

出典：「令和6年度科学研究費助成事業説明会」資料2「科研費の最近の動向及び令和6年度公募について」



SETSUDAI 14

抑えておくべきポイント

- 生成AIの利用に伴うリスクに留意のうえ判断する

2-5. 審査資料の電子化及びカラー化

研究者等のご要望に応じて、一部の研究種目について審査資料の電子化・カラー化を実施します。

内容のポイント

一部の研究種目（対象種目は以下参照）について、電子申請システムを通じて研究計画調書（PDF ファイル）の電子媒体を閲覧し審査を行うこととしました。

これに伴い、モノクロ（グレースケール）印刷して審査委員へ送付することを取り止めるため、色を付した図や文字が使用された研究計画調書がそのまま審査に付されます。

【審査資料の電子化・カラー化の対象となる研究種目】※

- ・令和6(2024)年度「特別推進研究」、「基盤研究（S）」
- ・令和5(2023)年度「研究活動スタート支援」、「海外連携研究」、「国際共同研究強化」、「帰国発展研究」

（※）上記以外の研究種目の審査においては、従前と同様、モノクロ印刷された研究計画調書を審査資料として使用します。なお今後、審査状況を踏まえ対象研究種目を拡大していく予定です。

出典：「令和6年度科学研究費助成事業説明会」資料2「科研費の最近の動向及び令和6年度公募について」



SETSUDAI 15

抑えておくべきポイント

- ・「特別推進研究」「基盤研究（s）」「研究活動スタート支援」「海外連携研究」「国際共同研究強化」「帰国発展」のみ
- ・今回応募する方の多くはモノクロ印刷のまま
- ・今回応募では今まで通りモノクロで一度印刷してみて、図や写真が鮮明に見えることを確認する

2-6. 科研費応募資格の変更（特別研究員DC）

【科研費応募資格】

- ① 応募時点において、所属する研究機関(注1)から、次のア、イ及びウの要件を満たす研究者であると認められ、e-Radに「科研費の応募資格有り」として研究者情報が登録されている研究者であること(注2)

<要件>

- ア 研究機関に、当該研究機関の研究活動を行うことを職務に含む者として、所属する者（有給・無給、常勤・非常勤、フルタイム・パートタイムの別を問わない。また、研究活動そのものを主たる職務とすることを要しない。）であること
- イ 当該研究機関の研究活動に実際に従事していること（研究の補助のみに従事している場合は除く。）
- ウ 大学院生等の学生でないこと（ただし、所属する研究機関において研究活動を行うことを本務とする職に就いている者（例：大学教員や企業等の研究者など）で、学生の身分も有する場合を除く。）

(注1) 研究機関は、科学研究費補助金取扱規程(文部省告示)第2条に規定される研究機関

(注2) 日本学術振興会特別研究員(DC)については、上記①のア～ウに関わらず、日本学術振興会特別研究員(DC)に採用されていることをもって応募資格の要件を満たすものとします。ただし、研究機関が満たさなければならない要件に関しては、研究機関において確認してください。

(参考) 研究機関が満たさなければならない要件

<要件>

- ・ 科研費が交付された場合に、その研究活動を、当該研究機関の活動として行わせること
- ・ 科研費が交付された場合に、機関として科研費の管理を行うこと

- ② 科研費やそれ以外の競争的研究費等で、不正使用、不正受給又は不正行為を行ったとして、公募対象年度に、「その交付の対象としないこと」とされていないこと

出典：「令和6年度科学研究費助成事業説明会」資料2「科研費の最近の動向及び令和6年度公募について」



SETSUDAI 16

抑えておくべきポイント

- ・ 自機関に所属する特別研究員（DC）のみ
- ・ 日本学術振興会特別研究員（DC）に現在応募中の方が採択された場合は、採択後に「研究分担者」として研究組織に入れられる可能性
- ・ 博士の学位取得の妨げとならない範囲で

2-7. 基盤Bにおける複数の小区分での合同審査の実施

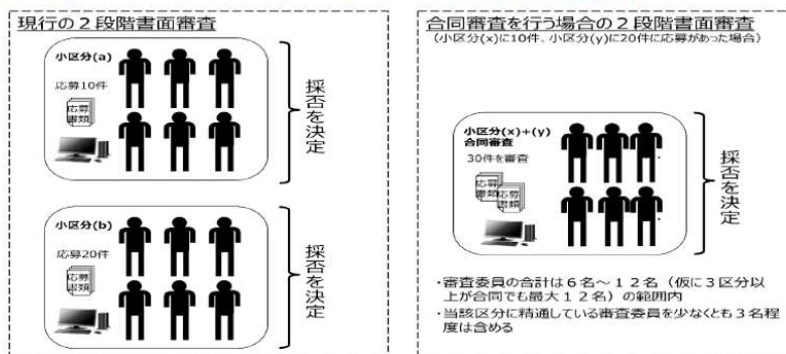
2023公募から

○小区分の「内容の例」の見直し

306小区分の約31%を占める96区分の内容の例について見直しを行い、195単語を追加、220単語を削除した。

○「基盤研究（B）」における複数の小区分での合同審査の実施

著しく応募件数の少ない状況にある一部の小区分について、複数の小区分での合同審査を実施



出典：「令和5年度科学研究費助成事業説明会」資料2「科研費の最近の動向及び令和4年度公募について」

申請書を作成する上で抑えておくべきポイント

- 対象となっている場合、専門知識のない方にも分かりやすい申請書となるよう特に意識することが重要
- https://www.jsps.go.jp/file/storage/kaken_kiban_2023_g730/godoshinsa.pdf

3. 科研費申請の戦略について



ポイント

- ・「良い申請書を書くこと」が大原則
＋
- ・「より有利な条件で進めるための戦略をとる」ことが重要！

3-1. 重複応募

主な重複応募の組み合わせ

種目(甲)	種目(乙)
基盤(A)(一般)	基盤(S) ^{※注1} 、挑戦的研究(開拓、萌芽)、学術変革領域研究(A、B)、若手研究(2回目) ^{※注2}
基盤(B)(一般)	挑戦的研究(開拓、萌芽)、学術変革領域研究(A、B)、若手研究(2回目) ^{※注2}
基盤(C)(一般)	学術変革領域研究(A、B)
若手研究(1回目)	学術変革領域研究(A、B)
若手研究(2回目) ^{※注3}	基盤(S) ^{※注1} 、基盤(A) ^{※注1} 、基盤(B) ^{※注1} 、挑戦的研究(開拓) ^{※注4} 、学術変革領域研究(A、B)
挑戦的研究(開拓)	基盤(S)、基盤(A)、基盤(B)、学術変革領域研究(B)
挑戦的研究(萌芽)	基盤(S)、基盤(A)、基盤(B)、学術変革領域研究(A、B)

注1 双方の研究課題とも応募できるが、双方採択となった場合には、乙欄の研究課題のみ実施する。

注2 双方の研究課題とも応募できるが、双方採択となった場合には、甲欄の研究課題のみ実施する。

注3 若手研究(2回目)とは、「若手研究(1回目)」を受給中で本年度が研究計画の最終年度の者、又は過去(平成30(2018)年度以前)に1度「若手研究」(若手研究S・A・Bを含む。)を受給し終わった者を指す。

注4 双方ともに採択された場合、双方ともに受給することができる。



ポイント

- 単純に採択の可能性を高める
+
- 異なる種目や異なる区分で、審査委員にどう評価されるのかを知る機会を作る

重複応募ができる場合は可能な限り重複応募することをお勧め

3－2. 研究計画最終年度前年度の応募

- ①基盤研究B・Cの研究課題のうち研究期間が4年以上のもの
②若手研究の研究課題のうち研究期間が3年以上のもの

上記①②のうち、令和6（2024）年度が研究期間の最終年度に当たる研究課題の研究代表者が「研究計画最終年度前年度に応募」が可能

研究計画最終年度前年度に応募が可能な継続研究課題	新たに応募することができる研究種目
基盤研究（S・A・B・C）の研究課題のうち、研究期間が4年以上の研究課題	基盤研究（S）、基盤研究（A・B・C） 特別推進研究
若手研究の研究課題のうち、研究期間が4年以上の研究課題	基盤研究（S）、 基盤研究（A・B・C）
若手研究の研究課題のうち、研究期間が3年の研究課題	基盤研究（S）、 基盤研究（A・B）



ポイント

- ・ 新規応募課題が不採択の場合でも継続研究課題はそのまま実施可能
- ・ 新規応募課題が採択となった場合、継続研究課題は「廃止」
- ・ 採択されたら新規課題に乗り換える、というイメージ
- ・ 科研費を途切れさせず、応募できるチャンスが1回増える！
- ・ 次年度の申請に向けた準備としても◎

3-3. 【重要】審査区分の選定



研究課題をさがす
科学研究費助成事業データベース

科学研究費助成事業データベースは、文部科学省および日本学術振興会が交付する科学研究費助成事業により行われた研究の当初採択時のデータ（採択課題）、研究成果の概要（研究実施状況報告書、研究実施報告書、研究成果報告書概要）、研究成果報告書及び自己評価報告書を収録したデータベースです。科学研究費助成事業は全ての学術領域にわたって幅広く交付されていますので、本データベースにより、我が国における全分野の最新の研究情報について検索することができます。

フリーワード

☐ 全文検索 へ 閉じる

研究課題名 研究課題/領域番号

研究課題種別 ☐ 研究課題 ☐ 領域 ☐ 継続助 ☐ 成果取りまとめ ☐ 計画研究 ☐ 公費研究 ☐ 国際活動支援助

研究種目 基礎研究(C)

配分区分 ☐ 補助金 ☐ 基金 ☐ 一部基金

審査区分/研究分野 小区分10020:教育心理学習

研究機関

研究期間(年度) 2019 ~ 開始年度

総配分額

研究課題ステータス ☐ 採択 ☐ 交付 ☐ 中断 ☐ 留保 ☐ 完了 ☐ 採択後経過 ☐ 中途終了

キーワード

検索エンジンで「KAKEN」と検索

どの審査区分で申請するべきか迷ったときや、近年、どのような研究課題が採択されているのかを知りたい時などに研究種目や区分を指定して過去の採択課題を参照することができます。



SETSUDAI 21

審査区分を選ぶ上でのポイント

- 審査区分によって、評価が全く異なることも珍しくない
 - KAKENデータベースの活用がオススメ
- 例1) 候補として考えている区分を指定して検索し、その区分の中で採択が多いテーマから、その区分内でのトレンドを探る
- 例2) 自分の研究のキーワードを指定して検索して、どの区分で自分のテーマが高く評価されそうかを探る
- 最も有利に評価されそうな区分を選びましょう

3-4. 過去の審査委員を知る

審査員名簿

https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/14_kouho/meibo.html

科学研究費助成事業（科研費） 審査委員名簿

Grants-in-Aid for Scientific Research

審査・評価について

審査委員名簿

科学研究費助成事業の審査を行った、審査委員の名簿です。

なお、各審査委員の所属・職については審査を行った時点のものです。

令和3年度	科学研究費委員会委員 PDF	審査委員（準備中）	審査区分表（準備中）
令和2年度	科学研究費委員会委員 PDF	審査委員	審査区分表 PDF

審査第三部会第38030小委員会I

[応用生物化学関連]

機関・部局・職	氏名
福井県立大学・生物資源学部・教授	日比 雅雄
宮崎大学・農学部・准教授	稲葉 靖子
九州大学・農学研究院・教授	角田 佳光
東京農工大学・（総合）農学研究科（研究院）・教授	三浦 豊

審査第三部会第38030小委員会II

[応用生物化学関連]

機関・部局・職	氏名
東北大学・生命医科学研究科・准教授	結田 孝樹



22

審査区分を選ぶ上でのポイント

- ・ 任期の終了した審査委員の名簿を閲覧できる
- ・ 過去の情報であるためあくまで参考
- ・ 「どんな専門分野の先生が審査する区分なのか」を知るヒント
- ・ 審査委員の専門分野のばらつき具合を知るヒント

- ・ 自分と違う専門分野の審査委員が入っている場合は、専門用語を避けたり、解説をつけるなどの工夫を
- ・ 審査委員同士での専門分野のばらつきが目立つ場合は、審査委員の入れ替わりにより、同じテーマで申請しても昨年度とは全く異なる評価が付く可能性も

3-5. 【重要】審査結果の精査（1）

1. 審査区分における採択されなかった研究課題全体の中での、書面審査の総合評価に基づくおおよその順位

おおよその順位は「B」でした。

（参考1）おおよその順位

A	審査区分における採択されなかった研究課題全体の中で、上位20%に位置していた
B	審査区分における採択されなかった研究課題全体の中で、上位21%～50%に位置していた
C	審査区分における採択されなかった研究課題全体の中で、上位50%に至らなかった

2. 書面審査における評価要素ごとの評価結果

1段階目の審査の各評価要素については、4段階の絶対評価により審査を行っています。あなたの評価要素毎の審査結果は次のとおりでした。審査では、総合評価に基づき採否が決定されます。審査にあたり、高い総合評価を付す研究課題は、必ずしも、全ての個別要素において高い評価を得る必要はない旨、評価基準等が示されています。

（1）【評価要素ごとの結果】

あなたの研究課題の平均点及び当該審査区分において採択された研究課題の平均点

評 定 基 準	あなたの平均点	採択課題の平均点
①研究課題の学術的重要性	2.50	3.13
②研究方法の妥当性	2.50	3.29
③研究遂行能力及び研究進捗の適切性	3.00	3.38

※当該審査区分に採択課題がない場合は、採択課題の平均点は「0.00」と表示されます。

（参考）①～③の評価基準

評価区分	評 定 基 準
4	優れている
3	良好である
2	やや不十分である
1	不十分である



SETSU DAI 23

ポイント

- ・「A」「B」「C」だけでなく、評価の平均点にも着目して対策
- ・「①研究課題の学術的重要性」が最重要
- ・「①研究課題の学術的重要性」に4点をつけた審査委員がいるか？

3-5. 【重要】審査結果の精査（2）

（2）【審査の際「2（やや不十分である）」又は「1（不十分である）」と判断した項目（所見）】

評点「2（やや不十分である）」又は「1（不十分である）」が付された評定要素については、そのように評価した審査委員の数を項目ごとに「＊」で示しています。（最大4個）

評定要素	項 例	審査委員の数
①研究課題の学術的重要性	・ 学術的に見て、推進すべき重要な研究課題であるか ・ 研究課題の核心をなす学術的「問い」は明確であり、学術的独自性や創造性が認められるか ・ 研究計画の着想に至る経緯や、関連する国内外の研究動向と研究の位置づけは明確であるか	＊ ＊ ＊
②研究方法の妥当性	・ 本研究課題の遂行によって、より広い学術、科学技術あるいは社会などへの波及効果が期待できるか ・ 研究目的を達成するため、研究方法等は具体的に適切であるか。また、研究経費は研究計画と整合性がとれたものとなっているか	＊ ＊
③研究遂行能力及び研究環境の適切性	・ 研究目的を達成するための準備状況は適切であるか ・ これまでの研究活動等から見て、研究計画に対する十分な遂行能力を有しているか ・ 研究計画の遂行に必要な研究施設・設備・研究費等、研究環境は整っているか	＊

※審査の際「2（やや不十分である）」又は「1（不十分である）」を付した審査委員がいない場合、「＊」は表示されません。

評定要素	あなたの平均点	採択課題の平均点
①研究課題の学術的重要性	2.50	3.13
②研究方法の妥当性	2.50	3.29
③研究遂行能力及び研究環境の適切性	3.00	3.38

※当該審査区分に採択課題がない場合は、採択課題の平均点は「0.00」と表示されます。



24

ポイント

- ＊が複数ついている項目については見直し

ポイント

- ＊の数と、平均点をもとに、4点を付した審査委員がいるか？
1点を付した審査員が何名いるか？が推測可能

3-5. 【重要】審査結果の精査（3）

審査員点数					平均
A	B	C	D		
4	4	4	4	4.00	
4	4	4	3	3.75	
4	4	4	2	3.50	
4	4	4	1	3.25	
4	4	3	3	3.50	
4	4	3	2	3.25	
4	4	3	1	3.00	
4	4	2	2	3.00	
4	4	2	1	2.75	
①	4	4	1	1	2.50
4	3	3	3	3.25	
4	3	3	2	3.00	
4	3	3	1	2.75	

審査員点数					平均
A	B	C	D		
4	3	2	2	2.75	
②	4	3	2	1	2.50
4	3	1	1	2.25	
③	4	2	2	2	2.50
4	2	2	1	2.25	
4	2	1	1	2.00	
4	1	1	1	1.75	
3	3	3	3	3.00	
3	3	3	2	2.75	
④	3	3	3	1	2.50
⑤	3	3	2	2	2.50
3	3	2	1	2.25	
3	3	1	1	2.00	

審査員点数					平均
A	B	C	D		
3	2	2	2	2.25	
3	2	2	1	2.00	
3	2	1	1	1.75	
3	1	1	1	1.50	
2	2	2	2	2.00	
2	2	2	1	1.75	
2	2	1	1	1.50	
2	1	1	1	1.25	
1	1	1	1	1.00	

ポイント

- (2)【審査の際「2（やや不十分である）」又は「1（不十分である）」が付された評定要素・・・】の項目で＊が付された数から、おおよそのパターンを知る
- 学術的意義において4点を付した審査委員が1名もない場合、テーマとして弱い恐れ
- 学術的意義において1点を付した審査委員が2名以上いる場合、単純に「審査委員との相性が悪かった」とは言えない
→テーマの再考や書き方の大きな見直し、審査区分の見直しを

3－6－0. 科研費研究計画調書の書き方

評定要素

（1）研究課題の学術的重要性

- ・学術的に見て、推進すべき重要な研究課題であるか。
- ・研究課題の核心をなす学術的「問い」は明確であり、学術的独自性や創造性が認められるか。
- ・研究計画の着想に至る経緯や、関連する国内外の研究動向と研究の位置づけは明確であるか。
- ・本研究課題の遂行によって、より広い学術、科学技術あるいは社会などへの波及効果が期待できるか。

（2）研究方法の妥当性

- ・研究目的を達成するため、研究方法等は具体的かつ適切であるか。
また、研究経費は研究計画と整合性がとれたものとなっているか。
- ・研究目的を達成するための準備状況は適切であるか

（3）研究遂行能力及び研究環境の適切性

- ・これまでの研究活動等から見て、研究計画に対する十分な遂行能力を有しているか。
- ・研究計画の遂行に必要な研究施設・設備・研究資料等、研究環境は整っているか。



抑えておくべきポイント

- ・ 評定要素に沿って研究計画調書を書き上げること！

3－6－1. 研究計画調書を作成する前に

- ☑ 何について研究を進めるのか？ 候補案を幾つか挙げて絞り込む
- ☑ そのアイデアは学術的側面から興味深い提案であるのか？
- ☑ これまでの自身の研究に関連付けて説明できるか？
- ☑ 研究成果として論文化がいくつ可能であるか？
- ☑ 予算規模、研究分担者、研究期間について検討
- ☑ 応募する区分、研究種目を検討

3-6-2. 研究課題名の書き方

令和X(20XX)年度 基盤研究（C）（一般）研究計画調書

令和XX年XX月XX日
1版

新規

研究種目	基盤研究（C）	応募区分	一般
小区分			
研究代表者 氏名	（フリガナ）		
	（漢字等）		
所属研究機関			
部 局			
職			
研究課題名	※40字以内		

抑えておくべきポイント

- 申請する研究計画を的確に表現した課題名をつける
- 漠然とした表現は避け、研究内容を簡潔に表す課題名にする
- 専門的な語句は避け、一般的なキーワードを使用する
- 研究分野で注目されているキーワードを使用する
- 調書作成中に課題名が浮かんだらメモしておき、調書が完成したらメモを参考に決定するのも◎

3-6-3. 1 概要欄の書き方

基盤研究（C）（一般）1

1 研究目的、研究方法など

- 国内において＜社会的ニーズ＞の重要性が今後益々高まるが、そのためには＜学術的「問い」＞を明らかにする必要がある（※①）
- これまで＜従来研究＞では殆ど顧みられてなかった＜問題点＞が存在する（※②）
- ※①②で3～4行
- ＜学術的「問い」＞を明らかにするためには＜問題点＞について解決することが必須であり本研究では＜研究目的1～3＞について検討を行う。（※③）
- 具体的には＜研究方法＞を用いて＜研究目的1～3＞を明らかにすることで＜学術的「問い」＞の達成に必要な＜主要要素＞を確立する（※④）
- ※③④で3～4行
- このことで＜波及効果＞が生まれ、今後＜学術領域＞での様々な利用が期待できる（※⑤）
- ※⑤で2行

抑えておくべきポイント

- 概要欄は審査委員が始めに読む箇所
→何度も推敲を重ねる
- 全体が完成してから書き始めるのが◎

3-6-4. 1 (1)本研究の学術的背景、研究課題の核心をなす学術的「問い」

- ・ <社会的背景>において今後益々<社会的ニーズ>の解決が喫緊の課題である。これに対して<学術領域>からこれまで<先行研究>のように主として<従来のアプローチ：研究動向>からの検討が行われてきた。
- ・ 申請者らはこれまで<申請者の業績>のように主として<申請者のアプローチ>から上記の問題について研究を進め、<申請者の当該学術分野における位置づけ>として重要な役割を果たしてきた<経緯・遂行能力>。
- ・ しかしながら、上記の<社会的ニーズ>に対して本質的な解決策は未だ見いだされていない。これまでの<従来研究>では殆ど顧みられてなかった<様々な問題点>が存在し、その背景には<本質的な問題>が存在すると考えられる<学術的背景>。
- ・ 今後解決すべき重要な課題は、いかにして<本質的な問題>を解決するかに掛かっている。
- ・ 本研究における<学術的「問い」>は<本質的な問題>を解決することである。

31

抑えておくべきポイント

- ・ 提案される研究課題の遂行がいかに重要で、かつ急を要するのかをしっかりと説明することが重要
- ・ 社会的背景について必ずしも説明する必要があるとは限らない
- ・ **提案する課題の重要性を裏打ちするような背景の説明が必要**
- ・ 学術的背景の説明は、学術分野における申請者の立ち位置を説明するために**国内外における研究の背景の説明は必須**
- ・ 学術的背景の説明の中で申請者自身の研究業績を含めると、今回の提案に至った経緯と申請者の遂行能力の両方の評定要素を組み入れることができる。
- ・ 研究の背景と問題点⇒学術的の説明

3－6－5. 1 (2)目的および学術的独自性と創造性

- 本研究の目的は＜学術的「問い」＞に対して＜今回のアプローチ＞から検討を進めることで以下の＜研究目的＞を明らかにすることであり、これにより＜学術的「問い」＞を解決するために必要とされる＜本質的な問題＞を解決することを目標とする。
- ＜研究目的1＞：（課題1）を明らかにする
- ＜研究目的2＞：（課題2）を明らかにする
- ＜研究目的3＞：（課題3）を明らかにする
- 従来の研究では殆ど顧みられてなかった＜様々な問題点＞が存在し、それに対してこれまであまり着目されていなかったことが課題＜本質的な問題＞の背景にある。
- 本研究では＜申請者のアプローチ＞から上記の問題に取り組み（経緯）、これまで解決されてこなかった＜様々な問題点＞の解決を目指すことが特徴である（独自性）。
- またこれにより＜学術領域＞において新たに＜申請者のアプローチ＞を基にした独自の研究手法が確立されることになり（創造性）、＜波及効果＞が期待される。

33

抑えておくべきポイント

- 独自性や創造性は、これまでの経緯や学術的背景に鑑み、どのような点がユニークで意義があるのかを客観的に説明する
- 「これまで研究されていない」≠「創造性がある」
- 研究のその先の展開と波及効果を述べることで審査委員に「この研究課題は採択すべき」と思わせる

3 - 6 - 6. 1 (3)本研究の着想に至った経緯や、関連する国内外の研究動向と本研究の位置づけ

- 申請者は・・・等の研究室において・・・とともに・・・について研究を進める中で、・・・のような現象が観察されることに気づき、これについてさらに詳細に調べたところ、意外にも・・・が関与する可能性に気付いた。そこで・・・のような仮説を立て、・・・の一連の実験を行った結果・・・の可能性が浮上してきた。このことを明らかにするための具体的方法を検討する中で、これまでの申請者が行ってきた様々な実験手法や経験を活用できる具体的なアプローチの方法が思い浮かび本研究の着想に至った。
- <学術領域>において海外では主に・・・のような視点からの研究が盛んであるが、一方で国内では・・・に代表されるように・・・に注目した研究が進められている。
- 申請者らは<専門分野>において研究を進めてきたが上記の・・・とは異なる視点からのアプローチを行い、・・・のような成果を挙げており、<学術領域>において重要な貢献を行っている。
- 本研究は上記の背景を基に、新たに・・・から研究を進め<学術領域>においてまた新たな知見を付与するものである。

35

抑えておくべきポイント

- 着想に至った経緯は、面接会場で面接官に自己紹介するような気持ちで説明する
- 関連する国内外の研究動向と本研究の位置づけは、できるだけ平易な言葉でわかりやすく
- この項目では「学術的背景」の項目よりももう少し個人的な視点から説明する

3-6-7. 1 (4)本研究で何をどのように、どこまで明らかにしようとするのか

- ・ <本研究の目的>を達成するために以下の項目について検討を行う。
- ・ <研究目的1> <研究期間>において、<材料又は手段>を用いて<研究方法>により<研究目的1>を解決する。より具体的には<研究方法の具体的詳細>から<検討項目1>を実施する。
- ・ <研究目的2> <研究期間>において、<材料又は手段>を用いて<研究方法>により<研究目的2>を解決する。より具体的には<研究方法の具体的詳細>から<検討項目2>を実施する。
- ・ <研究目的3> <研究期間>において、<材料又は手段>を用いて<研究方法>により<研究目的3>を解決する。より具体的には<研究方法の具体的詳細>から<検討項目3>を実施する。
- ・ 研究体制として研究代表者（申請者）は上記の検討において<検討項目1から3>を統括する。研究分担者Aは研究項目1を研究代表者と共同で実施する。研究分担者Bは研究項目3について研究代表者と共同で実施する。（図、表で示すと良い）
- ・ 以上の研究により<本研究の目的>が達成され、さらにその先の<学術的「問い」>に答えるための重要な基礎を築くことになると思う。

37

抑えておくべきポイント

- ・ あまり細かな研究方法の記載は審査委員にとって興味がわからない可能性がある
→概略の方法がイメージできる程度の具体性
図や表を使うと効果的
- ・ 研究分担者を置く場合には、代表者と分担者のそれぞれの担当内容を説明
図や表を使うと効果的

3－6－8. 1 (5)本研究の目的を達成するための準備状況

- 本研究の着想に至る際に、様々な予備検討を進めた。その中で・・・について実験を行ったところ意外にも極めて良好な結果が見いだされ、さらに実験の再現性や実験手法の最適化についても検討し、十分に信頼性のあるデータを収集する確信が得られた。
- 本研究の遂行に当たっては研究分担者らと十分な意見交換や情報交換を行いながら進められる体制が整っている。
- またアドバイザーとして・・・教授らの助言を頂きながら、適宜学生その他の協力者のサポートを得ながら進めることが可能である。

39

抑えておくべきポイント

- 予備検討により研究方法の妥当性を確認済み等、かなりの信頼性で研究目的の達成が見込まれる等をアピール
- 研究体制等、研究目的を達成できる環境が整っていることをアピール
- 採択すればすぐにでも研究をスタートし研究目的の達成のために動き出せる

3-6-9. 2(1)これまでの研究活動

- 申請者（研究代表者）の研究業績は以下の通りである。
- ＜研究テーマ1に関する研究業績＞ 研究テーマ1に関して下記の論文、学会発表（招待講演）、競争的資金等を挙げる。このテーマに関して申請者らは新たに・・・を見出し、これを詳細に解析することで・・・を確立することに成功した。この成果は現在・・・分野で広く利用されている。
論文リスト、学会発表（招待講演）、受賞歴、競争的資金その他
- ＜研究テーマ2に関する研究業績＞ 研究テーマ2に関して下記の論文、学会発表（招待講演）、競争的資金等を挙げる。このテーマに関して申請者らは新たに・・・を見出し、これを詳細に解析することで・・・を確立することに成功した。この成果は現在・・・分野で広く利用されている。
論文リスト、学会発表（招待講演）、受賞歴、競争的資金その他
- ＜研究テーマ3に関する研究業績＞ 研究テーマ3に関して下記の論文、学会発表（招待講演）、競争的資金等を挙げる。このテーマに関して申請者らは新たに・・・を見出し、これを詳細に解析することで・・・を確立することに成功した。この成果は現在・・・分野で広く利用されている。
論文リスト、学会発表（招待講演）、受賞歴、競争的資金その他

41

抑えておくべきポイント

- 単に論文や学会発表の数を見せるだけでなく、
- 代表的な業績をピックアップ
- その中でどのような検討を行い、どのような成果を上げたのか、さらには学術分野でどのような貢献に結びついたかなどを説明する
- 国際的な取り組みがあるから必ずしも良い評価につながるとは限らない。
今回の研究計画と関連する業績をこれまで通りにアピールする

3-6-9. 2(1)これまでの研究活動

- 申請者（研究分担者）の研究業績は以下の通りである。
- ＜研究テーマ1に関する研究業績＞ 研究テーマ1に関して下記の論文、学会発表（招待講演）、競争的資金等を挙げる。このテーマに関して申請者らは新たに…を見出し、これを詳細に解析することで…を確立することに成功した。この成果は現在…分野で広く利用されている。
論文リスト、学会発表（招待講演）、受賞歴、競争的資金その他
- ＜研究テーマ2に関する研究業績＞ 研究テーマ2に関して下記の論文、学会発表（招待講演）、競争的資金等を挙げる。このテーマに関して申請者らは新たに…を見出し、これを詳細に解析することで…を確立することに成功した。この成果は現在…分野で広く利用されている。
論文リスト、学会発表（招待講演）、受賞歴、競争的資金その他
- ＜研究テーマ3に関する研究業績＞ 研究テーマ3に関して下記の論文、学会発表（招待講演）、競争的資金等を挙げる。このテーマに関して申請者らは新たに…を見出し、これを詳細に解析することで…を確立することに成功した。この成果は現在…分野で広く利用されている。
論文リスト、学会発表（招待講演）、受賞歴、競争的資金その他

42

抑えておくべきポイント

- バランスとして研究代表者のウェイトが大きくなるようにまとめる

3-6-9. 2(2)研究環境（研究遂行に必要な研究施設・設備・研究資料等を含む）

基盤研究（C）（一般）5

2 応募者の研究遂行能力及び研究環境

応募者（研究代表者、研究分担者）の研究計画の実行可能性を示すため、(1)これまでの研究活動、(2)研究環境（研究遂行に必要な研究施設・設備・研究資料等を含む）について2頁以内で記述すること。

「(1)これまでの研究活動」の記述には、研究計画に関連した国際的な取組（国際共同研究の実施歴や海外機関での研究歴等）がある場合には必要に応じてその内容を含めること。また、研究活動を中断していた期間がある場合にはその説明などを含めてもよい。

43

抑えておくべきポイント

- 研究設備は所属機関に無くとも利用できる環境にあればよい
ex.プラットフォーム、共同利用施設、他機関の図書館等
- 研究設備の利用実績があれば記述
- 研究体制内外の人的交流や情報交換、勉強会の状況を書いても良い

4. 研究支援・社会連携センターによる支援および その他 お知らせ



4-1. コーディネーターによる支援、採択調書、参考書籍の貸出

①コーディネーターによる調書作成等のアドバイス・添削

中尾 圭司（理工（V以外）・文系担当） setsunan.kenkyu02@josho.ac.jp

濱田 浩幸（理工V科・薬・看護・農担当） setsunan.kenkyu05@josho.ac.jp

→センターもしくはCDにメールにて直接ご連絡ください **【7/21期限】**

※お申し込み時に研究計画調書が完成していなくても構いません。

②科研費採択者の研究計画調書の開示

2019年度以降に採択された研究課題のうち、研究代表者の許可が得られたものを開示しております。

→貸出については、センターまでメールにてご連絡ください。

枚方キャンパスには、閲覧用の冊子を各学部にも1部ずつ設置しています。

③科研費申請に関する参考書籍の貸出

児島 将康「科研費獲得の方法とコツ」（羊土社）改訂第8版 2022年07月14日発行

児島 将康「科研費申請書の赤ペン添削ハンドブック」（羊土社）第3版 2023年06月30日発行

→貸し出しについては、センターまでメールにてご連絡ください



SETSUDAI 45

ポイント

- 専門分野が違っていても、客観的な意見を聞くことで、申請書がどう評価されるのか知ることができる
- 過去に採択された調書を見ることで、どの項目にどんな内容をどれだけ記入するのかという参考になる
- 参考図書でまとまった知識を得る

4-2. 科研費応募に関するスケジュール

	基盤研究（A・B・C）、挑戦的研究、若手研究、奨励研究、研究成果公開促進費、学術変革領域研究（A）（公募研究）
公募開始	7月14日（金）
学内科研費応募説明会（WEB開催）	7月18日（火）～
コーディネーターによる研究計画調書（応募書類）のアドバイスの申込期限	7月21日（金） ※メール等での提出不要
学内応募締切 科研費電子申請システム上で送信ください	8月29日（火）
日本学術振興会応募締切	9月19日（火）
researchmapの入力期限	学内研究業績システムとの連携希望の場合は9月19日（火） 希望されない場合は10月上旬 システム改修のため、9月20日～9月29日9:00迄は学内研究業績システムへの入力できません

「researchmap」は、審査の際に審査委員が必要に応じて参照すること、となっています。
あくまで科研費の審査は研究計画調書で行われますが、最新の情報に更新するようにしてください。
科研費応募者には、別途、研究支援・社会連携センターから連絡させていただきます。

4-3. 各種リンク

公募要領

- 日本学術振興会HP（基盤研究、若手研究、挑戦的研究、奨励研究）
http://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/02_koubo/index.html
- 文部科学省HP（学術変革領域研究）
https://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/hojyo/boshu/1351544.htm
- 科研費FAQ
https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/01_seido/05_faq/index.html

電子申請システム操作手引き（応募用）

- JSPS 科研費電子申請システム
<http://www-shinsei.jsps.go.jp/kaken/topkakenhi/download-ka.html#tebiki>

その他

- KAKENデータベース <https://kaken.nii.ac.jp/>
過去の採択課題を検索・閲覧し、事前に応募分野の採択課題を調査する
- 審査委員名簿（過去の審査委員をweb上で確認することが可能）
https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/14_kouho/meibo.html
- researchmap
<http://researchmap.jp/>
- 審査の大括り化（基盤研究（B）における合同審査）の対象となる区分
https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/03_keikaku/data/r05/godoshinsa.pdf

ご採択に向けて支援いたします。
ご清聴ありがとうございました。

研究支援・社会連携センター 木村・徳田
E-mail : SETSUNAN.Kaken@josho.ac.jp
TEL : [840]3589・3832
寝屋川キャンパス 7 号館 6 階

2023 年 7 月 研究支援・社会連携センター

